

## 一第65編一 バラガンの奇跡

ルイス・バラガン<sup>\*1</sup>は(1902~1988)メキシコを代表する建築家・都市計画家である。室内に水面や光を大胆に取り入れた、明るい色彩の壁面による構成が特徴的な住宅や庭園を多く設計したことで知られる。また住宅地開発を手がけるデイベロツパー<sup>\*2</sup>としても成功したが、作品はメキシコだけにしかない。

彼はメキシコシティに自宅を建設し(亡くなるまで住んだバラガン邸<sup>\*2</sup>、写真65-1、2)、

\*1  
Louis Barragan  
Moulin  
(1902~1988)

\*2  
Casa Luis Barragan  
(1947~1948)

庭園設計などさまざまな建築的実験を試みている。

また、1945年には彼はメキシコシティの南部郊外の溶岩台地で郊外住宅地の都市計画に取り組んでいる。紀元前の火山爆発で溶岩に覆われ、買いたい手もつかない荒れ果てた土地であった。バラガ



写真65-1 バラガン邸外観

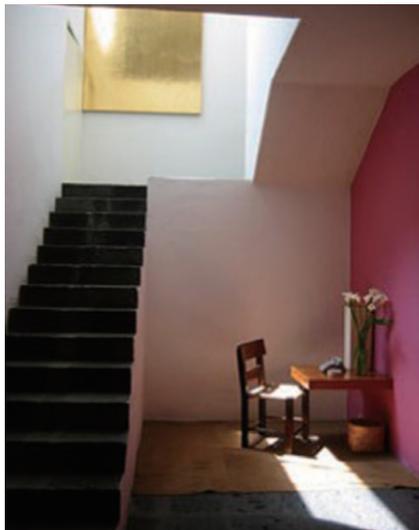


写真65-2 バラガン邸内観

ンはここに注目し、投資家を募って購入し分譲住宅地として販売した。これが当たり、以後、彼は住宅開発プランナーとして数々のプロジェクトを手がけ、大きな成功を収めたのである。

彼の建築の基本は、白を基調とする簡素で幾何学的なモダニズム建築だが、メキシコの民家によく見られるピンク・黄色・紫・赤などのカラフルな色彩で壁を一面に塗る手法を取り入れ、国際主義的なモダニズムと地方主義との調和を図ったことがよく知られている。また庭園や屋内に水を張った空間を取り入れたり、建物に溶岩やメキシコ特有の植物からなる庭園を作ったりしたことでも知られる。バラガンは正式な建築図面をほとんど描かず、スケッチによるデザイン、設計を行い、そのイメージスケッチを元にアシスタントなどが図面を作成したとされる。

写真65-3のヒラルディ邸<sup>\*3</sup>はバラガン最後の作品である。屋内の食堂に面してプールを設け、室内のさまざまな原色の壁や水面に自然光が降り注ぎ様々な方向に照り返される。なんということだろう。そこに出現した眩暈を覚えるような内部空間は、彼が辿り着いた光と色彩がすべてを凌駕する空間の集大成とも呼ぶべきものである。



写真65-3 ヒラルディ邸内観

\*3  
Casa Gilardi  
(1975~1977)